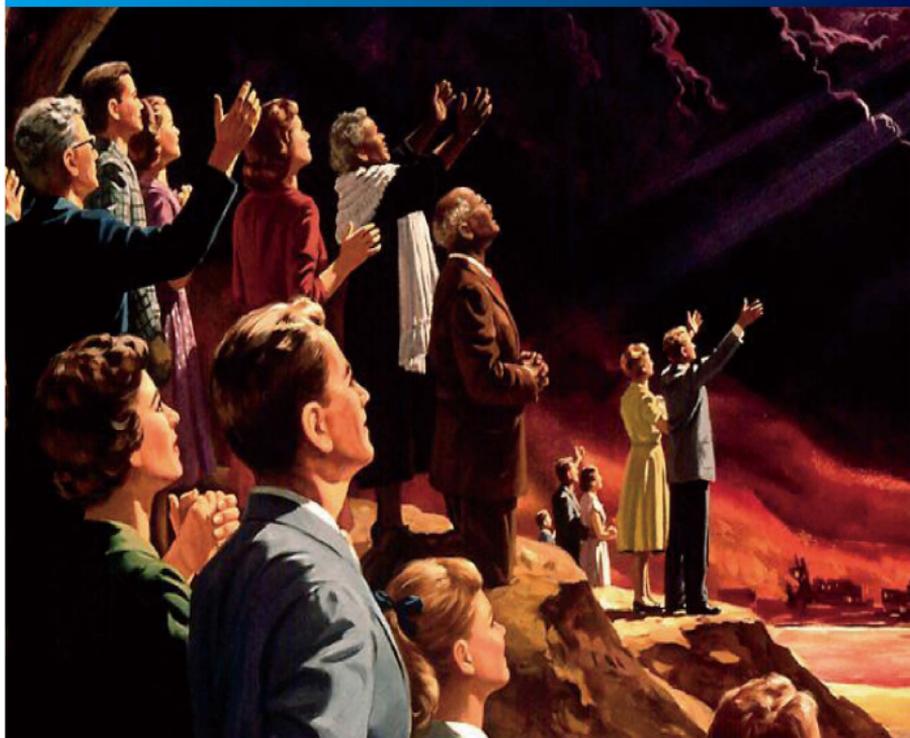




神の民の救出

生き残る人々

大争闘シリーズ No.12



大争闘シリーズ No.12

神の民の救出

生き残る人々

(キリストとサタンの大争闘 40 章)

目次

Contents

約束の日に	1
大地震と特別な復活	4
最後の日の人々の運命	7
十誡が全地に示される	10
イエスの来臨	13
「御怒りの大いなる日」	18
悪人たちの回想と後悔	20
聖徒たちの復活	23
神の都への行進	27
キリストの祈りの成就	29
回復されたアダムの主権	31
モーセと小羊の歌	35
賛美の大合唱	37
永遠のテーマ	40

はじめに

神の民はこの善と悪の大争闘のクライマックスにどんな経験をするだろうか。

地上では愛の神の救いの計画を拒んだ人々に、命を脅かすどんな災害が降り注がれるだろうか？

天体にはどんな驚くべきしるしが現れるだろうか？聖書の確実な預言の解き明かしに信頼しよう。

様々な世の終末思想が飛び交う中で、唯一聖書の未来観だけが、宇宙の理性を納得させる希望を与える。

約束のにじ

神の律法を尊ぶ者たちから、国家の法律による保護が取り除かれると、彼らを滅ぼそうとする運動が、あちこちの国で、いっせいに起こる。法令によって定められた期間が近づくとつれ、人々は、この憎い教派を根こそぎにしようと企む。一夜のうちに決定的な打撃を与えて、異議と非難の声を、全く沈黙させようということが決定される。

神の民は、ある者は牢獄に、ある者は森林や山中の寂しい場所に避難しているが、なおも神の保護を求めて祈っている。一方、いたるところで、武装した集団が悪天使の軍勢にかりたてられて殺害の準備に忙しくしている。絶体絶命の今こそ、イスラエルの神が、ご自分の選民を救うために手を下されるのである。主は言われる。「あなたがたは、聖なる祭を守る夜のように歌をうたう。また……主の山にきたり、イス

ラエルの岩なる主にまみえる時のように心に喜ぶ。主はその威厳ある声を聞かせ、激しい怒りと、焼きつくす火の炎と、豪雨と、暴風と、ひょうとをもってその腕の下ることを示される」(イザヤ 30:29,30)。

かちどきや、あざけりや、呪いの声をあげながら、悪人たちの群れが、今にもその餌食に飛びかかろうとするその時、見よ、夜の暗黒以上の深い闇が、地を覆うのである。続いて、神のみ座からの栄光に輝く虹が天にかかり、祈っているどの群れをも取り囲むように見える。怒り狂った群衆が、急に立ちすくむ。彼らのあざ笑いの叫びが消える。何のために殺気立っていたのかも忘れ、彼らは、恐ろしい予感におののきながら神の契約の象徴を見つめる。そして、その圧倒的な栄光の輝きから隠れたいと願う。

この時神の民は、「上を見なさい」というはっきりした音楽のような声を耳にする。彼らがこの目を天に向けるとき、約束の虹が見える。大

空を覆っていた黒い、怒ったような雲が裂けて、彼らは、ステパノのようにじっと天を見つめて、神の栄光と、人の子がそのみ座にすわっておられる光景を



見る。イエスのこうごうしいお姿の中に、十字架の恥を忍ばれた時の傷跡を、彼らは認める。そして、主が天父と聖天使たちの前で、「あなたがわたしに賜った人々が、わたしのいる所に一緒にいるようにして下さい」と願われるのを、主のくちびるから聞くのである（ヨハネ 17:24）。「きよく、傷なく、汚れのない者たちがやってくる。彼らは、わたしの忍耐の言葉を守ったゆえに、天使たちと共に歩むことができる」と言われる音楽のような勝利に満ちたみ声が、再び聞こえてくる。すると、信仰を固く保ってきた者たちの青ざめ震えていたくちびるが、勝利の叫びをあげる。

大地震と特別な復活

神が、ご自分の民を救うためにその力をあらわされるのは、真夜中である。太陽がその力強い光を放って現れる。しるしと不思議とが後から後から現れる。悪人たちはこの光景を、恐れと驚きをもってながめるが、一方義人たちは、彼らの救いの前兆を厳粛な喜びで迎える。自然界の万物は、ことごとく自然の軌道に逆らうように見える。川の流れは止まる。黒い厚い雲がわき上がり互いに衝突する。この怒ったような天の真ん中に、一か所言うに言われぬ栄光に満ちた澄んだ空間があって、そこから神のみ声が、多くの水の音のように聞こえてきて、「事はすでに成った」と告げるのである（黙示録 16:17）。

そのみ声は、天地を揺り動かす。大地震が起こる。「それは人間が地上にあらわれて以来、かつてなかったようなもので、それほどに激し

い地震であった」(黙示録 16:18)。大空は、開いたり、閉じたりするように見える。神のみ座からの栄光がひらめき渡るように見える。山々は風になびく葦のように揺れ、ゴツゴツした岩があたり一面に飛び散る。嵐が近づいているようになり声がある。海は荒れ狂う。強風のかん高い音が聞こえ、あたかも破



壊行為をなす悪魔の声のようである。全地は海の波のように上に下にと揺れ動き、地表は裂けて破れる。地の基そのものが崩れつつあるように見える。山脈は沈下し、人々の住んでいる島々が消えていく。罪惡に満ちてソドムのようになってしまった海港は、怒った水にのまれてしまう。神は大いなるバビロンを思い起こし、「これに神の激しい怒りのぶどう酒の杯を与えられ」る。「一タラントの重さほど」の大きな雹が、

破壊の働きをしている（黙示録 16:19,21）。地上のおごり高ぶっていた諸都市が低くされる。世の偉大な人たちが、自分たちに栄光を帰するために巨額の富を費やして建てた堂々たる宮殿が、彼らの目の前で崩れ去る。牢獄の壁はバラバラに砕け、信仰のためにつながれていた神の民が解き放たれる。

墓が開かれる。「地のちりの中に眠っている者のうち、多くの者は目をさますでしょう。そのうち永遠の生命にいたる者もあり、また恥と、限りなき恥辱をうける者もあるでしょう」（ダニエル 12:2）。第三天使の使命を信じて死んだ者はみな、神がご自分の律法を守った者たちと結ばれる平和の契約を聞くために栄化されて墓から現れる。「彼を刺しとおした者たち」（黙示録 1:7）、キリストの死の苦しみをあざ笑った者たち、そして、キリストの真理とその民とに対して最も激しく反対した者たちは、栄光をまとわれたキリストをながめるために、また、忠

実で従順な者たちに与えられる誉れを見るために、よみがえらせられる。

最後の日の人々の運命

重苦しい雲がなおも空を覆っているが、時々、太陽がすき間から現れ、それは主の報復の目のようである。恐ろしいなずまが天からひらめき、地球を一面の炎で包むように見える。恐ろしい雷鳴を圧して、神秘的な恐るべき声が、悪人たちの運命を宣言する。この時語られる言葉は、すべての者に理解されるわけではないが、特に偽教師たちには、それがはっきり理解される。少し前までは、向こう見ずで高慢で挑戦的で、神の戒めを守る民を残酷にあしらって勝ち誇っていた者たちが、今はもうあわてふためき、恐れおののいている。彼らの泣き叫ぶ声は、自然界の物音を越えて聞こえてくる。悪鬼たちさえキリストの神性を認め、キリストの力の前に

震えあがる。一方人々は、あわれみを請い求めて、あまりの恐怖にはいつくばる。昔の預言者たちは、神の日の聖なる幻を見て言った。「あなたがたは泣き叫べ。主の日が近づき、滅びが全能者から来るからだ」(イザヤ 13:6)。「あなたは岩の間にはいり、ちりの中にかくれて、主の恐るべきみ前と、その威光の輝きとを避けよ。その日には目をあげて高ぶる者は低くせられ、おごる人はかがめられ、主のみ高くあげられる。これは、万軍の主の一日があって、すべて誇る者と高ぶる者、すべておのれを高くする者と得意な者にと臨むからである。」「その日、人々は拝むためにみずから造ったしろがねの偶像と、こがねの偶像とを、もぐらもちと、こうもりに投げ与え、岩のほら穴や、がけの裂け目にはいり、主が立って地を脅かされるとき、主の恐るべきみ前と、その威光の輝きとを避ける」(イザヤ 2:10-12,20,21)。

雲の切れ目から、辺りの暗黒を破り、四倍

ほどに輝きを
増した一つの
星が輝き出る。
この星は、忠
実な者たち
には望みと喜
びとを語るが、



神の律法を犯した者たちには厳しさと怒りとを語る。キリストのためにすべてを犠牲にした者たちは、主の仮屋の奥に隠されているかのように、今は安全である。すでに彼らは試みられ、世界と真理を軽蔑する人々の前で、自分たちのために死なれたキリストに対する忠誠心を証明したのである。死に直面してもなお忠誠心を固く保ち続けた者たちの上に、驚くべき変化が起きた。彼らは、悪鬼と化した人々の暗黒と恐怖の圧政から、突然救い出された。さっきまで青ざめ、不安に閉ざされて、やつれはてていた彼らの顔が、今は驚嘆と信仰と愛に輝いている。彼らの声は、勝利の歌となって上がる。「神は

われらの避け所また力である。悩める時のいと
近き助けである。このゆえに、たとい地は変り、
山は海の真中に移るとも、われらは恐れない。
たといその水は鳴りとどろき、あわだつとも、
そのさわぎによって山は震え動くとも、われら
は恐れない」(詩篇 46:1-3)。

十誡が全地に示される

このような聖
なる信頼の言葉
が、神のみもとに
達する間に、雲は
離散し、星々の輝
く天が見える。両
側の暗い怒った



ような大空に比べ、その壮麗さは、言葉に言い
表せないほどである。天の都の栄光が、開かれ
た門から流れ出る。その時、折りたたんだ二枚

の石の板を持った手が、空中に現れる。「天は神の義をあらわす、神はみずから、さばきぬしだからである」と預言者は言っている（詩篇50:6）。その昔、シナイ山において人生の指標として、燃える炎と雷鳴のうちに宣言された神の義である聖き律法は、今や審判の規準として人々に示される。その手が石の板を開くと、火のペンで記されたかと思われる十誡の文字が見える。その文字は極めて明瞭に書かれていて、誰でも読むことができる。記憶が呼び覚まされ、すべての人の心から迷信と異端の暗黒が払いのけられ、簡単で理解しやすく、権威に満ちた神の十の言葉が、地上の全住民の前に示される。

神の聖なる要求を踏みにじってきた者たちの恐怖と失望とは、描写することができない。主は彼らに神の律法をお与えになった。彼らは、自分たちの品性をそれと比較して、まだ悔い改めて改革する機会のあるうちに、自分たちの欠点を知ることができたはずであった。しかし、

世の支持を受けたいために、彼らは律法の教えを捨て去り、またほかの者にも、それを犯すように教えたのである。彼らは、神の民に安息日を汚すように強要してきた。しかし今や彼らは、自ら軽蔑した律法によって罪に定められるのである。彼らは、もはや弁解の余地はないことを、恐ろしいまでにはっきりと知る。すでに彼らは、自分たちが仕え礼拝する対象を自ら選んだのである。「その時あなたがたは、再び義人と悪人、神に仕える者と、仕えない者との区別を知るようになる」(マラキ 3:18)。

神の律法の反対者たちは、牧師から最も小さい者に至るまで、真理とその義務について新たな見解を抱くに至る。彼らは、第四条の戒めの安息日が、生ける神の印であることを認めるが、しかしもう遅い。さらにまた、彼らは偽の安息日の真の性質を知り、自分たちがこれまで砂の土台の上に築いていたことを知るが、もう遅いのである。彼らは、自分たちが神と戦っていた

ことに気づく。牧師たちは、人々を天国の門へ導くと公言しながら、その実、魂を滅亡に導いていた。聖職にある者の責任がどんなに重いものであるか、また、彼らの不忠実の結果がどんなに恐るべきものであるかは、最後のさばきの日まで知ることができない。たった一人の魂の損失でも、我々がそれを正しく評価できるのは、永遠においてのみである。「悪いしもべよ、わたしから離れ去れ」と神から言われる者の運命は、実に恐ろしいものである。

イエスの来臨

天から神のみ声が聞こえて、イエスの来られる日時が宣言され、神の民に対し永遠の契約が伝えられる。どんな雷鳴も及ばないとどろきをもって、神のみ言葉が地上に鳴り響く。神のイスラエルは、耳を傾け、目を上方に注いで立っている。彼らの顔は神の栄光に照らされて、シ

ナイ山から帰ってきたときのモーセの顔のように輝いている。悪人たちは、彼らを見つめることができない。神の安息日を聖く守ることによって神を崇めてきた者たちに対して祝福が宣言されると、勝利の力強い叫びが起こる。

まもなく、東の方に、人の手の半分くらいの大きさの小さい黒雲が現れる。それは、救い主を囲んでいる雲で、遠くからは、暗黒に包まれているように見える。神の民は、これが人の子のしるしであることを知っている。彼らは、厳粛な沈黙のうちに、その雲が地上に近づくのを見つめる。それは次第に明るさと輝かしさを増し、ついには大きな白い雲となって、下の方には焼き尽くす火のような栄光が輝き、上の方には契約の虹がかかっている。イエスは、偉大な勝利者としておいでになる。今度は、恥辱と苦悩の苦い杯を飲む「悲しみの人」ではなくて、天地の勝利者として、生きている者と死んだ者とをさばくために来られる。「忠実で真

実な者」「義によってさばき、また戦うかたである。」そして「天の軍勢が」彼に従う（黙示録 19:11,14）。数えることができないほどの聖天使たちの群れが、天の聖歌を歌いながら付き従う。空一面が「万の幾万倍、千の幾千倍」もの輝く天使たちで満たされたように見える。この光景は、いかなる人のどんな筆でも描くことができない。その輝かしさは、どんな人間の頭でも十分に想像することはできない。「その栄光は天をおおい、そのさんびは地に満ちた。その輝きは光のようである



(ハバクク 3:3,4)。生きている雲が、さらに近づくと、すべての目は生命の君をながめる。今

はその聖なる頭を傷つけるいばらの冠はなく、その聖なる額には栄光の冠がある。そのみ顔は、真昼の太陽よりもまぶしく輝く。「その着物にも、そのももにも、『王の王、主の主』という名がしるされていた」（黙示録 19:16）。

イエスを前にして、「どの人の顔色も青く変わっている。」神の恵みを拒んだ者に、永遠の絶望の恐怖が襲ってくる。「心は消え、ひざは震え、……すべての顔は色を失った」（エレミヤ 30:6、ナホム 2:10）。義人たちは、震えながら、「だれが立つことができようか」と叫ぶ。天使たちの歌はやみ、恐るべき沈黙のひとときがある。すると、「わたしの恵みはあなたに対して十分である」というイエスのみ声が聞こえる。義人たちの顔は輝き、その心は喜びで満たされる。そして天使たちは、再び声高らかに歌い始め、彼らはいよいよ地上に近づいてくる。

王の王は、燃える炎に包まれて、雲に乗ったまま降りて来られる。天は巻物が巻かれるよう

に消えていき、地は、王の王の前に震え、すべての山と島とは、その場所から移されてしまう。「われらの神は来て、もだされない。み前には焼きつくす火があり、そのまわりには、はげしい暴風がある。神はその民をさばくために、上なる天および地に呼ばれる」(詩篇 50:3,4)。

「地の王たち、高官、千卒長、富める者、勇者、奴隷、自由人らはみな、ほら穴や山の岩かげに、身をかいた。そして、山と岩とにむかって言った、『さあ、われわれをおおって、御座にいますかたの御顔と小羊の怒りとから、かくまってくれ。御怒りの大いなる日が、すでにきたのだ。だれが、その前に立つことができようか』」(黙示録 6:15-17)。



「御怒りの大いなる日」

あざけり笑う声はやんだ。偽りのくちびるは沈黙に変わった。「騒々しい声と血まみれの衣」で相戦う戦いの騒ぎは止み、武器の鳴り響く音は静まる（イザヤ 9:5 欽定訳）。今聞こえてくるものは、祈りと嘆きと悲しみの声だけである。少し前まであざけり笑っていた者たちが「御怒りの大いなる日が、すでにきたのだ。だれが、その前に立つことができようか」と叫ぶ。悪人たちは、自分たちが軽蔑し拒否してきたお方の顔を見るよりは、山々の岩石の下に葬られることを願う。

死者の耳にも通るそのみ声を、彼らは知っている。その優しい訴えのみ声は、どんなにたびたび、彼らに悔い改めを呼びかけたことであろう。そのみ声は、友人や兄弟、そして贖い主の心を打つ訴えのうちに、幾度聞かれたことだろう。その恵みを拒否した者にとって、「あな

たがたは心^{ひるがえ}を翻せ、心を翻してその悪しき道を離れよ。……あなたは どうして死んでよかろうか」と長い間訴えてきたみ声ほど、彼らの心を苦しめ責めるものはないのである（エゼキエル 33:11）。ああ、むしろ、それが見知らぬ人の声であればよいだろうに。「わたしは呼んだが、あなたがたは聞くことを拒み、手を伸べたが、顧みる者はなく、かえって、あなたがたはわたしのすべての勧めを捨て、わたしの戒めを受けなかった」とイエスは言われる（箴言 1:24,25）。その声は、彼らが消し去ってしまいたいと思う記憶—警告をあざけり、招きを拒み、特権を軽んじた記憶—を呼び起こす。

この中には、キリストが十字架の辱めを受けられたとき、彼をあざけた者たちもいる。大祭司から神に誓って答えを要求された時、苦悩のうちにあられた主が、「あなたがたは、間もなく、人の子が力ある者の右に座し、天の雲に乗って来るのを見るであろう」と厳粛に宣言さ

れた言葉を思い起こして、彼らは身震いする(マタイ 26:64)。彼らは今、栄光のうちにあられる人の子をながめているが、これから、人の子が力ある者の右に座られるのを見るのである。

悪人たちの回想と後悔

わたしは神の子であるとのキリストの宣言をあざけた者たちは、今は何も言えない。そこには、イエスの王としての称号をさげすみ、あざ笑う兵士たちに命じて彼に王冠をかぶらせたヘロデもいる。不敬な手で紫の衣を彼に着せ、その尊い額にいばらの冠をかぶらせ、何の抵抗もなさないみ手に模造の王笏を持たせ、嘲笑しながら礼拝のまねをして神を汚した、その当人たちがいる。生命の君を打ち、つばを吐きかけた者たちは、今、キリストの射るような視線から顔をそむけ、そのご臨在の圧倒的な栄光から逃げようとする。イエスのみ手とみ足に釘を

打ち込んだ兵士たちや、その脇腹を刺した兵士は、恐怖と後悔とに打ち震えてその傷跡を見る。

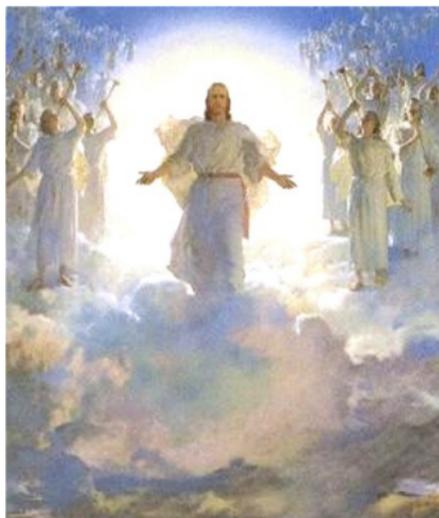
祭司たち、為政者たちは、恐ろしいまでにはっきりと、カルバリーの事件を思い起こす。悪魔のように勝ち誇った気持ちで、頭を振りながら「他人を救ったが、自分自身を救うことができない。あれがイスラエルの王なのだ。いま十字架からおりてみよ。そうしたら信じよう。彼は神にたよっているが、神のおぼしめしがあれば、今、救ってもらおうがよい」と叫んだことを思い出して、彼らは震えあがる（マタイ 27:42,43）。

彼らは、主のぶどう園の実を納めることを拒んで、主人のしもべたちを辱め、主人の子を殺した農夫たちについての救い主のたとえ話を、はっきり思い起こす。彼らはまた、ぶどう園の主人は「悪人どもを皆殺しに」するであろうと、彼ら自身が言い放った宣告を思い起こす。これらの不忠実な人々の罪と刑罰の中に、祭司や長

老たちは、自分たちの歩んだ道と、自分たちの受けるべき運命とを認める。そして今や、彼らの断末魔^{だんまつま}の苦悩の叫びが上がる。「十字架につけよ、十字架につけよ」とエルサレムの町中に響き渡った叫びよりも、さらに大きな声で、「彼は神のみ子だ！彼は真のメシヤだ！」という恐ろしい絶望的な嘆きの声上がる。彼らは、王の王、主の主のみ前から逃げようとする。地の変動の結果できた洞窟の奥深くに隠れようとするが、むだである。

誰でも真理を拒む者の一生には、いつかは良心が目覚め、偽善的な生活をふりかえって苦しみ、魂がとりかえしのつかない後悔に悩まされる時がある。しかし、そうしたことは、「恐慌が、あらしのように……臨」み、「災が、つむじ風のように臨」むその日の激しい後悔とは、到底比べられない（箴言 1:27）。キリストとその忠実な民とを殺そうとした者たちは、今や彼らの上に宿る栄光を認める。彼らは、自分たちが恐

怖に襲われている最中に、聖徒たちが喜ばしい声を上げ「見よ、これはわれわれの神である。わたしたちは彼を待ち望んだ。彼はわたしたちを救われる」と叫ぶのを聞く（イザヤ25:9）。



聖徒たちの復活

地がよろめき、いなずまがひらめき、雷がとどろく真ただ中、神のみ子の声が、眠っている聖徒たちを呼び起こす。イエスは義人たちの墓を見下ろし、み手を天にあげ、「目ざめよ、目ざめよ、目ざめよ。ちりの中に眠る者たちよ、

起きよ」と呼ばれる。地の全面に渡って、死者はそのみ声を聞き、聞く者は生きるのである。地上には、あらゆる国民、部族、国語、民族の中からよみがえった大群の足音が鳴り響く。「死よ、おまえの勝利は、どこにあるのか。死よ、おまえのとげは、どこにあるのか」と叫びながら、彼らは死の獄屋から、不死の栄光をまとって現れる（Iコリント 15:55）。そして、生きていた聖徒たちと復活した聖徒たちとは共に声を合わせて、勝利の長い喜びの叫びを上げる。

どの人もみな、墓に入ったときと同じ身長で墓から現れる。復活した大群衆の中に立つアダムは、背が高く堂々たる容姿



で、神のみ子より少し低いだけである。このアダムと後世の人々とは、著しい対照を示してい

る。この一事によっても、人類の大きな退化が認められる。しかし、どの人もみな、永遠の若さの新鮮さと活力にあふれてよみがえる。世の初めに、人は、品性だけでなく、容貌や姿も神のみかたちにかたどって創造されたが、罪のために神のかたちは損なわれ、ほとんど消えてしまった。しかしキリストは、その失われたものを回復するために来られた。キリストは、我々の卑しい体を造り変えて、ご自身の栄光の体に似たものとして下さる。かつては罪に汚され、美を失い、死ぬべき、朽ち果てるべきものとなった体が、完全な、美しい、不死のものとなる。すべての傷や醜さは、墓の中に残される。贖われた者は、長い間失われていたエデンの命の木に再び近づくことを許され、最初の栄光に輝く人類の完全な背丈に「成長する」のである（マラキ 4:2 欽定訳）。罪の呪いの最後の痕跡が取り除かれ、キリストに忠実に仕える者たちは、知的にも、霊的にも、身体的にも、主の完全な姿を反映して、「われらの神、主のうるわしさ」

を着て現れる。ああ、何というすばらしい贖いであろう！これこそ今まで長い間語り合い、熱望し、熱心な期待をもって瞑想してきたが、しかし決して十分には理解できなかったことであつた。

生きている義人たちは、「またたく間に、一瞬にして」変えられる。彼らは、神のみ声によって栄化された。今や彼らは不死の者とされて、よみがえった聖徒たちと共に、空中において主に会うために引き上げられる。天使たちは、「天のはてからはてに至るまで、四方からその選民を呼び集める。」小さい子供たちは、聖天使に抱かれてきて、その母親の手に渡される。長らく死別していた友人たちは再会して、もう永久に離れることなく、喜び歌いつつ、共に神の都へと上るのである。

神の都への行進

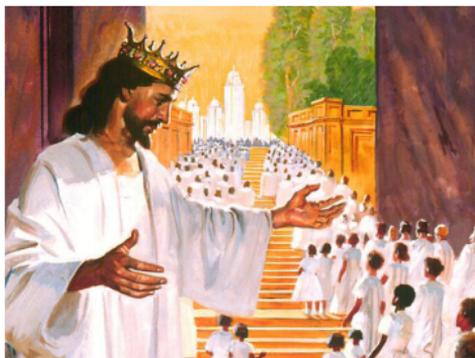
彼らを携える雲の車の両側には翼があり、その下には生きた輪がある。そして車が上に進むにつれて、輪は「聖なるかな」と叫び、翼も、動きながら「聖なるかな」と叫ぶ。そして、付き従う天使たちは、「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、主なる全能の神」と叫ぶ。車が、新エルサレムに向かって進むにつれて、贖われた者たちは「ハレルヤ！」と叫ぶ。

神の都に入る前に、救い主は、聖徒たちに勝利の記章を与え、王族のしるしを授けて下さる。輝く行列は、四角形となる。その中央には、彼らの王であられるキリストが立たれる。彼のお姿は、すべての聖徒や天使たちよりも高く堂々としており、そのお顔からは慈悲深い愛の輝きが、彼らの上にあふれ出ている。数えきれないほど多くの、贖われた者たちの視線は、すべてイエスの上に注がれ、「顔だちは、そこなわれ

て人と異なり、その姿は人の子と異なっていた」お方の栄光を、すべての目がながめる。勝利者の頭には、イエスご自身が右の手で、栄光の冠をかぶらせて下さる。すべての者のために、その人の「新しい名」と「主に聖なる者」という言葉が刻まれた冠がある（黙示録 2:17）。すべての者の手には、勝利者のしゅろの枝と輝く立琴とが授けられる。そして、指揮する天使たちが合図の音をかき鳴らすと、すべての者の手は巧みに立琴を奏で、すばらしい音楽の美しい調べが湧き起こる。この時すべての者の心は、言葉に言い表せない感激を覚え、すべての声は「わたしたちを愛し、その血によってわたしたちを罪から解放し、わたしたちを、その父なる神のために、御国の民とし、祭司として下さったかたに、世々限りなく栄光と権力とがあるように」と感謝の讃美をささげる（黙示録 1:5,6）。

贖われた群衆の前には聖都がある。イエスは真珠の門を広く開き、真理を守って離れな

かった諸国の民を導き入れられる。彼らはそこに、神のパラダイス、すなわちアダムが罪を犯す前の故郷を見



る。その時、人間の耳が今まで聞いたどんな音楽よりも豊かな美しいあの声が、「あなたがたの戦いは終わった。」「わたしの父に祝福された人たちよ、さあ、世の初めからあなたがたのために用意されているみ国を受けつぎなさい」と言われる。

キリストの祈りの成就

ここで、「あなたがわたしに賜った人々が、わたしのいる所に一緒にいるようにして下さい」と弟子たちのために祈られた救い主の祈

りが成就する。キリストは、ご自分の血によって贖われた者たちを、「その栄光のまえに傷なき者として、喜びのうちに」父の前に示し（ユダ 24 節）、「わたしはここにおります。そして、あなたがわたしに下さった子供たちもおります。」「あなたがわたしに下さったものを、わたしは守りました」と言われる。ああ、何という驚嘆すべき贖いの愛であろう。無限なるお方であられる天父が、贖われた者たちをごらんになって、罪による不調和が消え、罪の呪いが除かれ、人性が再び神性と調和して、そこに神のみかたちをごらんになる時の、その喜びはどんなであろう。

言葉に言い表すことのできない愛をもって、イエスは、彼に忠実であった者を歓迎し、主の喜びに迎え入れて下さる。救い主の喜びは、ご自身の苦悩と屈辱とによって救われた魂を、栄光のみ国において見ることである。また、贖われた者たちは、祝福された群れの中に自分たち

の祈り、苦勞、犠牲によってキリストに導かれた人々を、見いだすとき、主の歡喜に共にあずかることができるのである。彼らが大いなる白いみ座のまわりに集合して、自分がキリストに導いた者たちを見、そして、その者はさらに他の者を、他の者はさらに他の者を導き、すべての者が休息の港に入れられたことを見るとき、彼らの心には言うに言われぬ喜びが生じ、主の足下に自分たちの冠を投げ出して、永遠にわたってイエスを賛美するのである。

回復されたアダムの主権

このようにして、贖われた者たちが神の都に迎え入れられるとき、喜ばしい賛美の声が空に響きわたる。今、二人のアダムが会おうとしている。神のみ子イエス・キリストは、そのみ手を広げて立ち、人類の始祖アダムを抱こうとしておられる。神のみ子が、この人を創造された。

その彼が創造主に罪を犯した。そして、彼の罪のために、救い主の体に十字架の傷が負わされたのである。アダムは、残酷な釘跡を一目見ると、主のみ胸に抱かれることをせず、恥じ入って主の足下にひれ伏し、「ほふられた小羊こそは……さんびを受けるにふさわしい」と叫ぶのである。救い主は、優しく彼を抱き起こして、彼が長い間追放されていたエデンの故郷をもう一度見るようにとお命じになる。

エデンを追放されてからの、アダムの地上の生涯は、悲しみに満ちたものであった。木の葉が落ち、犠



牲の動物がささげられるのを見、自然の美が傷つけられ、人間の純潔が汚されるのを見るたびに、彼は自分の罪をまざまざと思い出した。彼は、罪が増えひろがるのを目撃し、警告の声を

上げると、それに答えて、罪の起こりは彼自身のせいであるとののしられて、恐ろしい良心の呵責に悩まされた。彼は千年近くもの間、身を低くして、罪の刑罰を耐え忍んだ。彼は、心から自分の罪を悔い改めて、約束された救い主の功績に信頼し、復活の希望をもって死んだ。神のみ子は人間の失敗と墮落とを贖われた。そして今、贖罪の働きによって、アダムに最初の主権が返されたのである。

彼は、喜びのあまり我を忘れて、かつて自分の楽しみであった木々、まだ罪を犯さず喜びに満ちていた時に、自分で実を集めたその木々をながめる。彼は、自分の手で整えたぶどうの木や愛し育てた花々をながめる。彼の心は、この光景が現実であることを悟る。これが回復されたエデンであることを認める。しかも、彼が追放された時よりも、いっそう美しくなったエデンであることを彼は悟るのである。救い主は、彼を命の木に導き、その輝く実を取って、アダ

ムに食べるようお命じになる。彼はあたりを見まわす。そして、贖われた彼の家族の大群集が、神のパラダイスに立っているのを見る。その時彼は、自分の輝く冠をイエスの足下に投げ出して、彼の胸によりすがり、贖い主を抱きしめるのである。彼は黄金の立琴を奏でる。そして天の丸天井に、「ほふられ、よみがえられた小羊は、さんびを受けるにふさわしい」という勝利の歌がこだまする。アダムの家族は、その旋律に合わせて声を上げ、彼らの冠を救い主の足下に投げ出し、崇敬の念をもって彼の前にひざまずくのである。

アダムが墮落したときに涙を流し、イエスが復活後、み名を信じるすべての者のために墓を開いて、天に昇られたときに歓喜した天使たちが、この再会を目撃する。今や彼らは、贖罪の働きの完成を目撃し、賛美の歌に彼らの声を合わせるのである。

モーセと小羊の歌

み座の前の、水晶より透き通った海、すなわち、火の混じったガラスの海—神の栄光でまばゆく輝いているところの、一の上に、「獣とその像とその名の数字とにうち勝った人々が」集まっている。シオンの山の小羊



と共に、人々の間から贖われた彼ら、すなわち、十四万四千が、「神の立琴を手にして」立つのである。また、大水のとどろきのような、激しい雷鳴のような、「琴をひく人が立琴をひく音」のようなものが聞こえる。そして、彼らは、み座の前で「新しい歌」を歌う。この歌は、十四万四千以外の者は、誰も学ぶことができない。それは、モーセと小羊の歌、すなわち、救いの歌である。十四万四千のほかは、誰もその

歌を学ぶことができない。なぜなら、それは彼らの体験—他のどの群れもしたことの無い体験—の歌だからである。「小羊の行く所へは、どこへでもついて行く。」彼らは、地上から、生きている者の間から、天に移された者たちで、「神と小羊とにささげられる初穂」と見なされる（黙示録 15:2,3;14:1-5）。「彼らは大いなる患難をとおってきた人たちであって」、国が始まって以来かつてなかったほどの悩みの時を通過してきた。彼らは、ヤコブの悩みの時の苦悩に耐え、神の最後の審判と刑罰が下る中を、仲保者なしで立った。しかし彼らは、「その衣を小羊の血で洗い、それを白くした」ために、救われた。「彼らの口には偽りがなく、彼らは」神の前に、「傷のない者であった。」「それだから彼らは、神の御座の前におり、昼も夜もその聖所で神に仕えているのである。御座にいますかたは、彼らの上に幕屋を張って共に住まわれるであろう。」彼らは、地上が飢饉（ききん）と疫病でもって荒廃し、太陽が激しい熱で人々

を焼く光景を目撃し、自らも苦しみ飢え渴いた者である。しかし今や、「彼らは、もはや飢えることがなく、かわくこともない。太陽も炎暑も、彼らを侵すことはない。御座の正面にいます小羊は彼らの牧者となって、いのちの水の泉に導いて下さるであろう。また神は、彼らの目から涙をことごとくぬぐいにとって下さるであろう」との言葉が実現する（黙示録 7:14-17）。

賛美の大合唱

各時代において、救い主の選びを受けた者たちは、試練という学校で教育され、訓練された。彼らは地上の狭い道を歩み、苦難の炉で清められた。彼らは、イエスのために、反対、憎悪、中傷に耐え忍んだ。彼らは、様々な激しい争闘の中でも主のみ足跡に従い、自己犠牲に耐え、苦い失望をも経験した。彼らは、自分自身の悲痛な経験によって罪の邪悪さを知り、その

力、その害毒、その悲惨さを知った。そして彼らは、罪を嫌悪するに至った。彼らは、自分たちが罪から救い出されるために払われた無限の犠牲を悟るときに、おのずから心はへりくだり、墮落したことの無い他世界の住民たちには味わうことのできない感謝と賛美に、心が満たされるのである。彼らは、多く許されたゆえに、多く愛するのである。彼らは、キリストの苦難に共にあずかったことによって、彼の栄光にも共にあずかるにふさわしい者とされるのである。



神の相続人たちは、屋根裏、あばらや、牢獄、刑場、山々、砂漠、地のほら穴、海の洞窟などから出て来た。彼らは、この地上では「無一物になり、悩まされ、苦しめられた。」幾百万という人々が、サタンの欺瞞的主張に屈すること

を断固として拒んだために、汚名を着せられたまま墓に下っていった。彼らは、人間の法廷において、最悪の犯罪人であると宣言された。しかし今、「神はみずから、ざばきぬし……である」（詩篇 50:6）。今、地上の判決を覆し、神は「その民のはずかしめを……除かれる」（イザヤ 25:8）。「彼らは『聖なる民、主にあがなわれた者』ととなえられ」る。主は「灰にかえて冠を与え、悲しみにかえて喜びの油を与え、憂いの心にかえて、さんびの衣を与え」られる（同 62:12;61:3）。彼らはもはや、弱く、苦しめられ、追い散らされ、圧迫される人々ではない。今から後、彼らは永遠に主と共にいるのである。彼らは、地上のどんな栄誉ある人も着たことのない美しい衣を着て、み座の前に立つ。また、彼らは地上のどんな王もかぶったことのない輝かしい王冠をかぶる。痛みと嘆きの時は、永久に終わった。栄光の王が、彼らの顔からことごとくその涙をぬぐい去り、悲しみと嘆きは、その源から取り去られるのである。彼らは、しゅろ

の枝を振りかざしながら、美しく澄んで調和のとれた賛美の歌を歌い出す。すべての者は一斉に、その調べに和して歌い、讚美の歌は天の丸天井に満ちあふれる。「救は、御座にいますわれらの神と小羊からきたる。」天の住民はみな、この讚美の言葉に答える。「アアメン、さんび、栄光、知恵、感謝、ほまれ、力、勢いが、世々限りなく、われらの神にあるように、アアメン」(黙示録 7:10,12)。

永遠のテーマ

この地上においては、我々は、贖罪という驚くべきテーマについて、ほんの初歩のことしか理解できない。恥辱と栄光、生命と死、義とあわれみが、十字架において出会った事実を、限りある我々の理解力でどんなに熱心に探り調べてみても、また、そのあらん限りの知力を傾けてみても我々は、その意味を完全に把握する

ことはできないのである。贖いの愛の長さ、広さ、深さ、高さは、かすかにしか理解されない。贖いの計画は、贖われた者たちが、見られているように見、知られているように知る時においてさえ、十分には理解されない。そして、永遠にわたって、新しい真理が絶えず示されて、心は驚きと喜びに満たされるのである。地上の嘆き、痛み、誘惑は終わり、その原因は除かれても、神の民は、自分たちの救いのためにどんな価が払われたかということについて、はっきりした理解を持ち続けるのである。

キリストの十字架は、永遠にわたって、贖われた者たちの科学となり歌となる。栄光に包まれたキリストのうちに、彼らは、十字架につけられたキリストを見る。広大な空間に、数えきれないほどの諸世界を創造し、支えておられる力ある主、神の愛するみ子、天の大君、ケルビムや輝くセラピムが喜んで崇めるお方、そのお方が、墮落した人類を救うために身を卑しくさ

れたことは、決して忘れられることがない。また彼が、罪の苦痛と恥辱とを一身に負い、父のみ



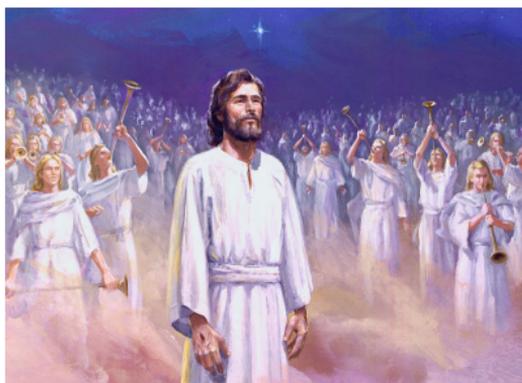
顔から隔てられ、ついには失われた世界の苦悩がその心臓を破裂させ、カルバリーの十字架上でその命を絶たれたことは、永遠に忘れられることがない。全宇宙の創造者、一切の運命の決定者である彼が、人類に対する愛から、栄光を捨てて自ら人間となられたという事実は、永久に宇宙の驚嘆と称賛の的となる。救われた諸国民が、贖い主を見て、そのみ顔に天父の永遠の栄光が輝いているのをながめるとき、また、永遠から永遠に至るイエスのみ座をながめ、イエスのみ国には終わりがいいことを知るとき、彼らはどっと歓喜の歌声を上げて、「ほふられた小羊、ご自身の尊い血によって、わたしたちを

神に贖って下さったおかたは、賛美を受けるにふさわしい、賛美を受けるにふさわしい」と叫ぶのである。

十字架の奥義は、他のすべての奥義を説明する。カルバリーから流れ出る光に照らして見るとき、我々のうちに恐怖と畏敬の念を満たした神の属性は、美しい、人を引きつけるものに見える。聖と、義と、権力に混じって、あわれみ、優しさ、父としての愛情が見られる。我々は、高く掲げられた神のみ座の威光をながめる一方で、神のご品性の恵み深いあわれみを見て、「われらの父よ」というあの永遠に続く称号の意味を、今までになく理解する。

無限の知恵を持っておられる神は、我々の救いのために、み子の死よりほかに方法を考え出すことがおできにならなかった。この犠牲に対する報いは、聖く幸福で不死の身となって贖われた者たちを、地に住まわせるという喜びである。救い主が悪の権力と戦われた結果は、贖わ

れた者たちに与えられる喜びであり、永遠にわたって神にみ栄えを帰することである。魂にはこのように大きな価値があるので、天父は、払われた価に満足される。そして、キリストご自身も、その大きな犠牲の実をごらんになって満足されるのである。



もっと詳しく知りたい方のために、
大争闘小冊子シリーズの完全版

“キリストとサタンの大争闘”



E.G. ホワイト著

ポケット版 400円

各時代の人類歴史に展開されてきた善と悪、真理と誤謬の大争闘の真相と悪の勢力の陰謀と策略を明らかにし、それに勝利する方法、今起こっている諸事件と諸現象はどんな意味を持っているか、人類にどんなすばらしい未来が待っているか等々が解明されている必読の書！

お問い合わせ、お申込みは下記の連絡先まで

サンライズ ミニストリー

〒905-0428 沖縄県国頭郡今帰仁村字今泊1471

TEL(0980)56-2783 FAX(0980)56-2881

contact@srministry.com

www.srministry.com

大争闘小冊子シリーズ

- No.1 罪惡の起源
- No.2 サタンと人類の戦い
- No.3 悪魔のわな
- No.4 人は死んだらどうなるか？
- No.5 心霊術の正体
- No.6 現代キリスト教会の危機
- No.7 ローマ法王教の狙い
- No.8 差し迫った戦い
- No.9 ただ一つの防壁—聖書
- No.10 世界への最後の警告
- No.11 大いなる悩みの時
- No.12 神の民の救出
- No.13 平和な千年期は来るか？
- No.14 大争闘の終結



サンライズ ミニストリー

〒905-0428 沖縄県国頭郡今帰仁村字今泊1471

TEL(0980) **56-2783** FAX(0980) **56-2881**

contact@srministry.com

www.srministry.com